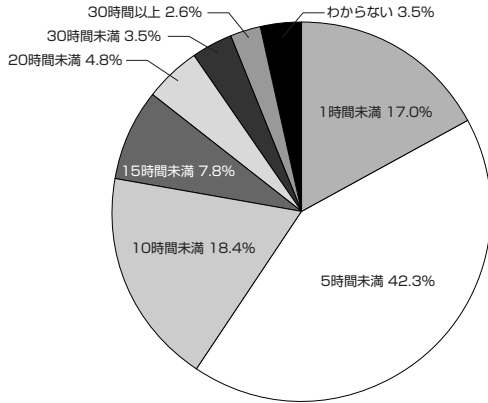


第2章 個人

利用時間

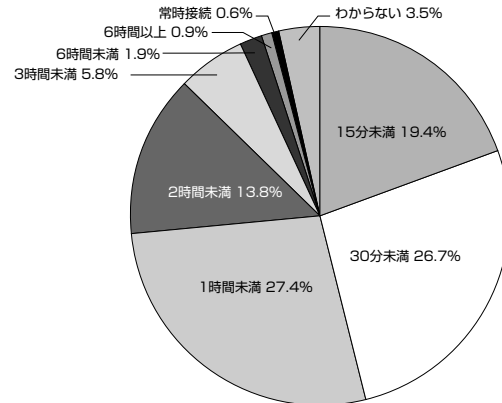
接続時間は昨年よりやや長い

資料1-2-1 1週間当たりの利用時間 N=1666



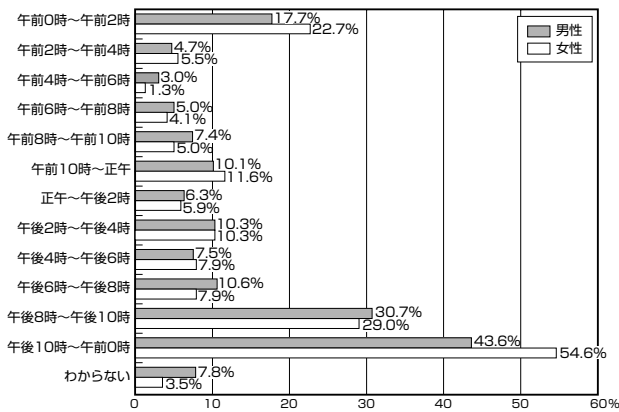
インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-2 1回当たりの接続時間 N=1666



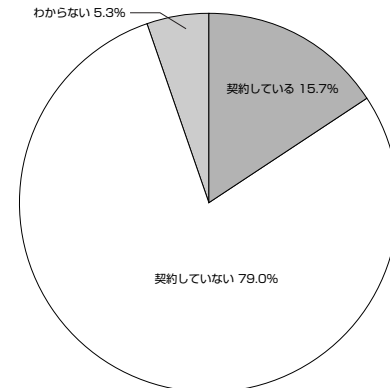
インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-3 主に利用する時間帯 (性別) N=1666



インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

資料1-2-4 「テレホーダイ」等の深夜通話料金割引サービスの契約有無 N=1666



インターネット白書2000 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 2000

解説

本調査はインターネット利用者の市場規模を把握すると同時に、エントリー層（ここでは利用スキルに関係なく、この1年の間に家庭でインターネットを使い始めた層を指す）からパワーユーザーまでの利用実態を一元的に分析することを目的としている。そのため、できる限り現状のインターネット利用の実態を正確に捉えるよう、あえて全国規模の電話による10万8009件のスクリーニングと約3万4260件の普及率調査と郵送調査の組み合わせという調査手法を用いている。今回で4年目を迎えるが、例年同様時系列分析も含め、市場の成長を考察している。

今年の調査では、インターネット利用者数の拡大に伴い、エントリー層が増加し、また相対的にヘビーユーザー層の比率が低下したが、このことが全体の結果に大きく反映している。

1週間当たりの利用時間の傾向は昨年とほぼ変わらない。利用時間10時間未満の合計が全体の4分の3を超えるが、中でも「1時間以上5時間未満」は42.3%にのぼる（資料1-2-1）。

1回当たりの接続時間（資料1-2-2）は昨年と比べると1時間以上の利用者の合計が若干増加している。昨年あたりから専用線接続や月額固定料金制のプロバイダーが増えており、それにより接続時間が徐々に長時間化してきているといえる。

利用時間帯を性別で見ると女性の深夜利用がやや多い（資料1-2-3）。利用歴や年代、職種などからみて、若年層で学生や専門職等インターネット利用の基本的な技術レベルの高い女性の深夜利用率が高いことがわかる。その一方で、専用線接続の普及に伴い、「テレホーダイ」のような深夜割引サービスの利用率は1999年の20.1%から2000年では15.7%と減少傾向がみられる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp